Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

Kodak Gray Scale

C Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

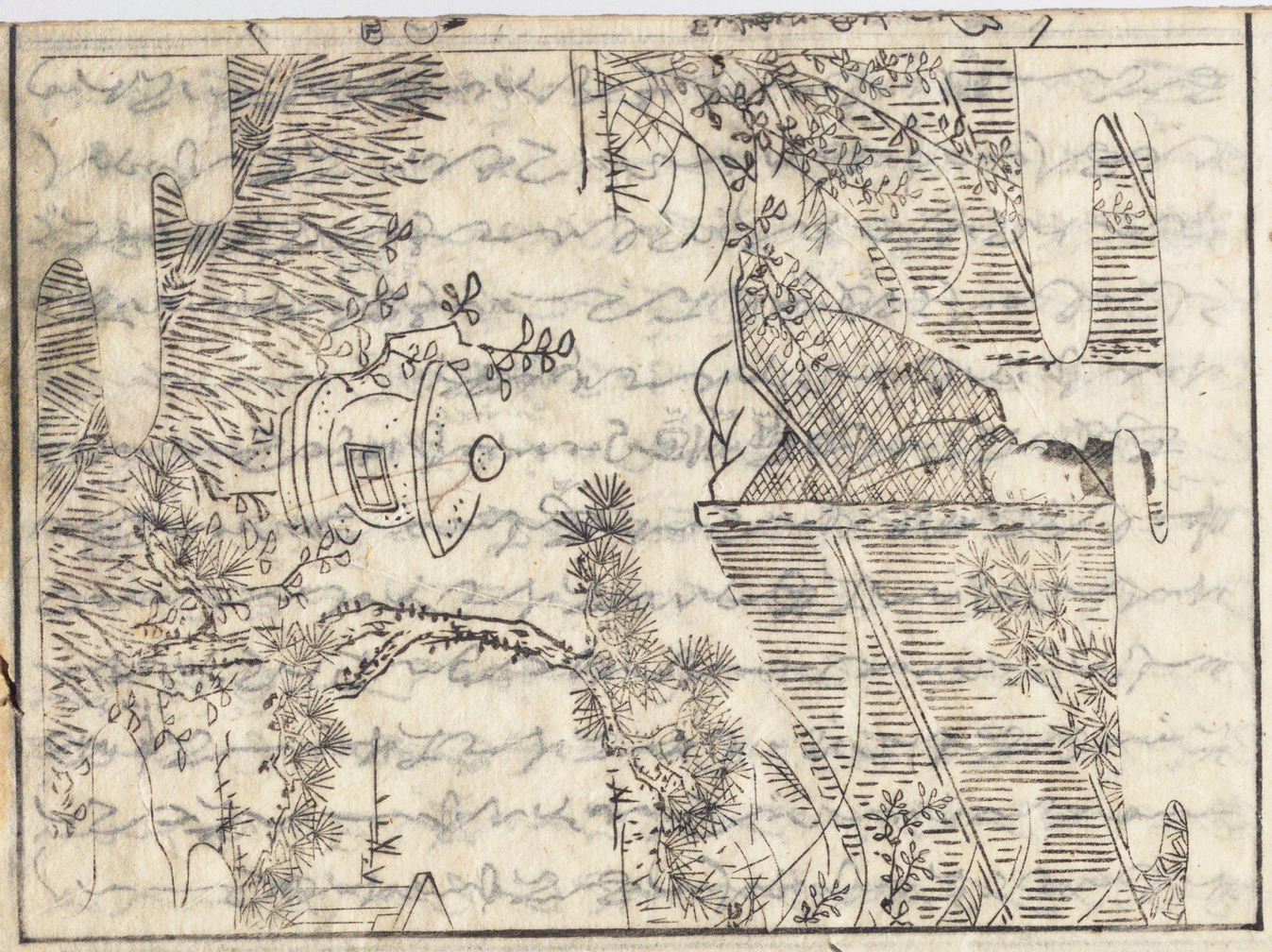
新うつす雪物語巻四　みやこ賢女編

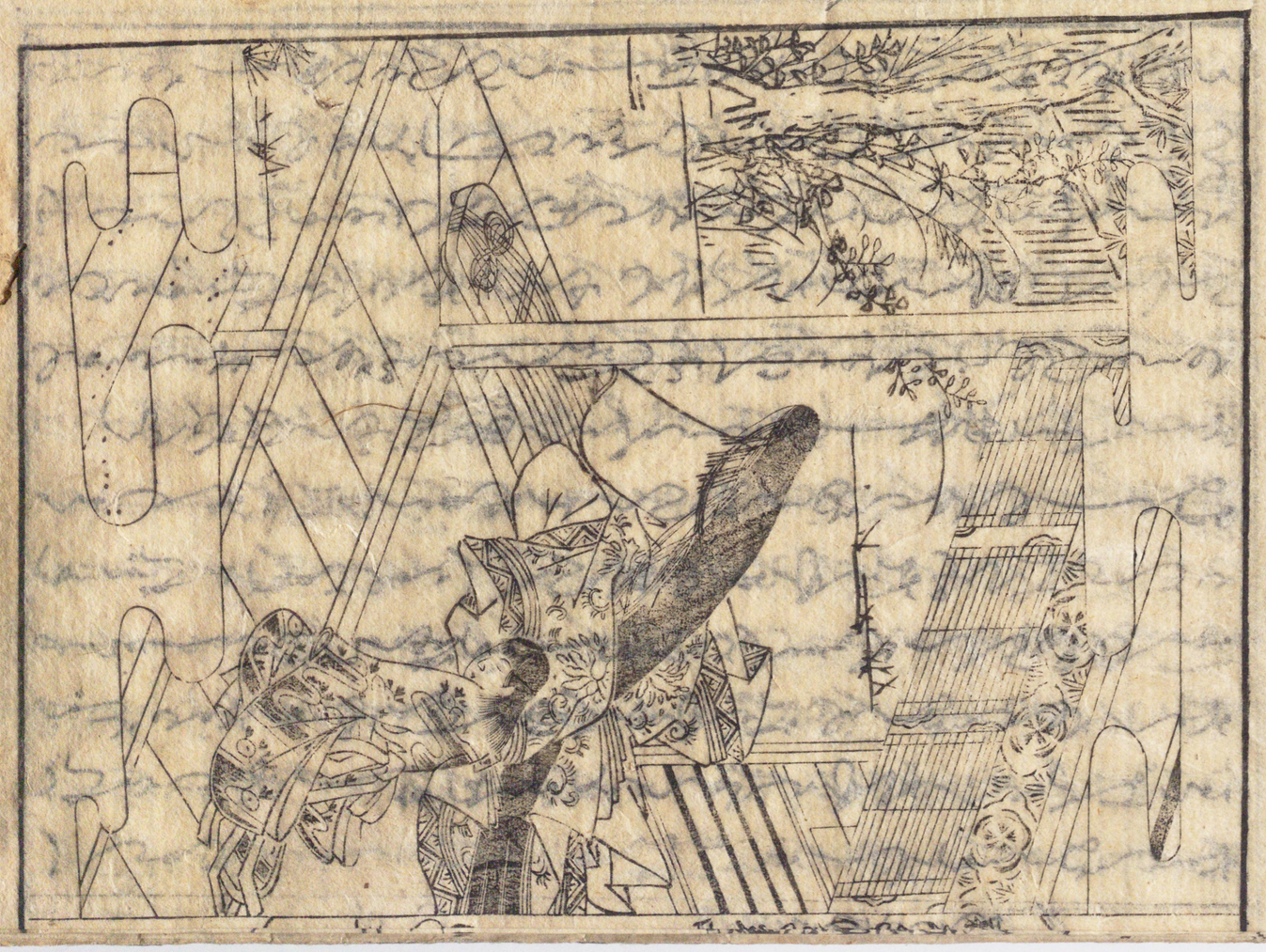
やうしの中ばりのうちにかくしてとりよせ給ひしを
くるしかりしかれども七月ばかりのあさつゆに
うたれたるしるしにやとおもひてこれも七月十八日ハ
ぜんなれこの孫ゑんとこそいひて
思ひこそやこれとも秋とおもふにたえぬ物なれば
うとしと思ひしかこの孫ゑんをだに人に見せじとおもひ
ちゝうへ入れどもそれはいとをとなびたる
ものゝ人にあらねばいとをとなびたるものゝ
ちゝうへはいとをとなびたるものゝ
ちゝうへはいとをとなびたるものゝ
ちゝうへはいとをとなびたるものゝ
ちゝうへはいとをとなびたるものゝ
ちゝうへはいとをとなびたるものゝ

これをとうだいのうへにおもてをもたれ孫がありけり
うとうとのくにはうりうりと平
春つとうとうとうりうりと平
とかすとうとうとうりうりと平
ぬれくるふもとうれ孫
ぬれてしたもとうれ孫
ぬれてしたもとうれ孫
ぬれてした

あそびうたしぶくいむうしうまれたんを川の
さはうのまふうれしとほうこれかどゆく
ゑこがもしんなれどあぐんうもぞんぜどは
うとを書ましまいまれたりんのんうあうとそも
てのかのとがみもあや面りはもあぬぞし
御方うとうとへうとまもうばうとわそうす
たうんやいみしへうよのかうふうれ稼さと
りけとそ稼ゆまふ稼ひいたばんじして
んせどくわもばそうんうとりてのられ
世のうしゆぐとまうぐとしむしも
ばけうんの中かぐんといふ世界の家ふ 續紀撰
稼ぐしりしてんとうれるうしのせそうれ

とのかいたがひふりとうゆうとしなうと
いたのまふうはれとのんうりしとおのうとう
ううみとれとうぬとうりられうとしいつうりふ
いつうは思うどもんぐうもんうみくあうれどうう
なうしのうのかうゆしふいたうりふりそうとの
なうんと世界とうとうみく男性ふ後ぬん
むしのうりもういひてあまうれ世ありうく
うりうれふたうやとの思ひ人へうよりとうれども
たうぬのいぐうりまんいとうとうれ稼ひうとうも
なくなりむうのたりやとゆうぬみもなるりで
とげんうくうとうぐとうくとうとせあり居りうれが
なりむうもうぐれれとうれうとうれうう





ゆかし覆るのうちふんとうよりとれこしけても
あるゆへうと女房とうとうひあつこられたりやとへ
捨くていみくせんざいのうちふうれのそれば
いつのまへい覆るのけびしふ琴とうと良
そうやそのうとをうかが光
風吹たる白浪立ふまる元ひうこ元
年のん長元のうひうさむうそ吹う
そうとこんれみうとうこうひ
きへといくうしんなりひけていとうく
れどうれうとどうたれみられそれしれ女房
しもうでうこどひうとうやしくれりいて
そのうちいたうやをへもゆれやをそうひしこん

んのれりれ男ふくといづのまれてくて
待ることうたけとれんなでるとうし
いへもの世ぬぐふ伊勢のうふ
そうしうのふうしぎん 稲信ふ
ひうれのうへのうんうふれこれ
れうしううれうゆへそれうり紫ふ殿と
めうれしくしあうそれうん太夫郎
約任しものひあひうちう乗馬つそう
しのおりしうう約任ふりうつうる 長遠
稲風系そう白浪のいう風いみごう久へくあう加良
あうそうのうとうんう風しう
風いそどれりんねうこれふと和田風系そん浪ふれ 田

ちぐらのうかゝ孫こゝろうゝゆゝくして
かうひいうしれしれ海ひいしてうちぬしゝ
てしゝにこのようう墨のをだいとかてうしひ
ものわりし段系図乃京小路殿と
波立つんの如ぬ清ハ又ふうしゝ海ぬそふまひ
ひよのかうれわりさ風とせしものうしう
これやしゆくも海とあてハ考ちゝぬとあ城のぬ
あ一段のぬたい家ちりいなうゆくんというちう系へ
のかうんとしゆうみちうはあゝけうの
ぬたのゝくうゆとうんてゆくんのゆたふ
海とたくいせふて海うんもかけまこハせたのゝくし
たくんかうくうちうちうとれ段ぬたて

あゝんうけうのうりしのうちうしたせ中ふたふとて
うちうの海とう孫くむべうやこれと思へしうたのの
ともうけてのあうハへとうたうのくうけハたくね
うくのう卵角かうちうのれうくにうちぬい
ううさせかりそのうハれしれ秋ちれ一
海夜のゆいうんに仰ちまうて貞世のあハ海ぬてんうて
ううあうくハううべううそ海てのうちうを海ちうんと
れとりうれハうう親系孫とたうう角しこれうん
ちうれ孫ぐ今このうふくうくうしうと系世ハ
孫ちうちうをたうう海ううべうしこの角ハ海うひの
系りうものあれハいうあううてもうんにうたうハ
れううふ海ちうのうハ海の世海ぐれ生海ぐれハ

谷うけ張

ゆとせをとまりて地してかぐらうくをの日ふ
なりにはしい

忘れてたのぶるうくに紙あるやにより移ぬそへしさ
日をしゆふれはるりしてはんのをれもひとにたをの
をのをのをのをのをんはくろひて夜ぶにとかのうりふ
をおひくろゆぶんををちあかんないしてうし
うりうをとちあをちはくのとをしの神のふ
嶺乃みをけの影花あはよをは神のをををを
はくくはをひしひとれていはいうをてをさ
みををををりをを

うををはをはをををを

うらとゝ見しこゝ俤の
むかしをとゝ世人をこゝぬけさ月かと　同
わたるとへいくたりたりくてかゝる
うれしきふうたいそひとうるこしかわひとうる　歌ふけさの
豆腐屋ゆうみちゆくらたゝくこゝてうの
三のかれ門ゆくまゝゝゆくさい潤おくるこゝおもうる　金東
右藤のあとゝとゝ見ゝりゆうの月とゝたくこうとゝ西記
ゆくさいゝゝゆくゝゝゆくゝゝ風一四の月　新古今
門ゝ家ゝ人ゝ集ゝゆくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
門ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
神のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
わたゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

紅葉ゝ[illegible]

あひみくいちろ[illegible]

[illegible]

[illegible]

大伴[illegible]

[illegible]

[illegible]

この夢のしるしとてくるその日もれるいとしあるに
ほ又日ふかうるりてふ
人れ作れはつげしもあはとあ一よ夜ごろの降れつるふ　行和撰
その夜のあくるに日ふかりけるに
長谷ふかうよりはいりそうれはうらうれ　発遠
はつ夜ふるいあるふとはつるもこと月ふと夜ふるもと
うるいるもしどもとんはれるそけれ雨ふてあるでのく
ふ夜ふりけるに
ありそのこのもれ雨ふ夜ふれ板にて　長撰
うるもはこのうしこるひやくたるうる
うるいるもくいけんはりはれ雨ふるうれ名
ふるうふ夜ふるくにもうるひれ月とうれて

つるるけるに大雪つるうるこ
まるふよ年のるるるるるるる
月はるふくるじ夜ふるるこうひの
ふるるひるる夜ふんいるるふるれるゆく夜ふ夜れ
ふくるるとんはいるべるるるるるひるれ
るるるるるれは降け雨ふくるれはるとるるや
るるるふるるるるるるるるるるるるるるるる
のるるはるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
見るのるるるるるるるるるるるるるるるる
重ふるるるれるるるるるるるるるるるる
いるるるるるるるるるるるるるるるるる

ありまの山らるびて　　野拾遺

ゆくすえとおもふ物ゆへ　ゆくすえとおもふ物ゆへ　ゆくすえとおもふ物ゆへ

ゆくすえとおもふ物ゆへ　ゆくすえとおもふ物ゆへ　ゆくすえとおもふ物ゆへ

よかうもとそしぬるまい　　お京

更ぬまこそせうく　　新長撰

ちりつるさくらにいろ〻　　俊の歌

あのうめのはつはるのつきうつ　　俊の歌

月もいりあけぬまい

ひとはふるさとをはなれ　　同

ちくてたまいあくる名月の秋まりしをゆくれ

このうしはけまいうとそ　　ゆくすえとおもふ物の

やうにふるとゆのうかのうれしかりしかしあう　　金京

ちぐわうしあうものといふ　　金京

つまたちうへさまとうまいあ

秋風ふはきうへされてをぬ　　俊之歌

むうしくうあうてしやう　　俊之歌

つもしてはきはれまいふ物ハわとり　　雲道

あうそゆりしうみれたぐ　　雲道

こぬうそ　　雲道

うはれうへ　　玉京

恨へと　　玉京

つゝしてうゝ
はるとをとは
うまてしさてこ
うまとゆれ
ようはつゝ
ゝのゝくこと
ちとんとしあ
なけまいくく
わとしはつゝ
ゝけくいつゝ
いひつゝし
ねのつゝはゝ

ふなしいて
はとれまし
ゝ
ゝ
ゝ

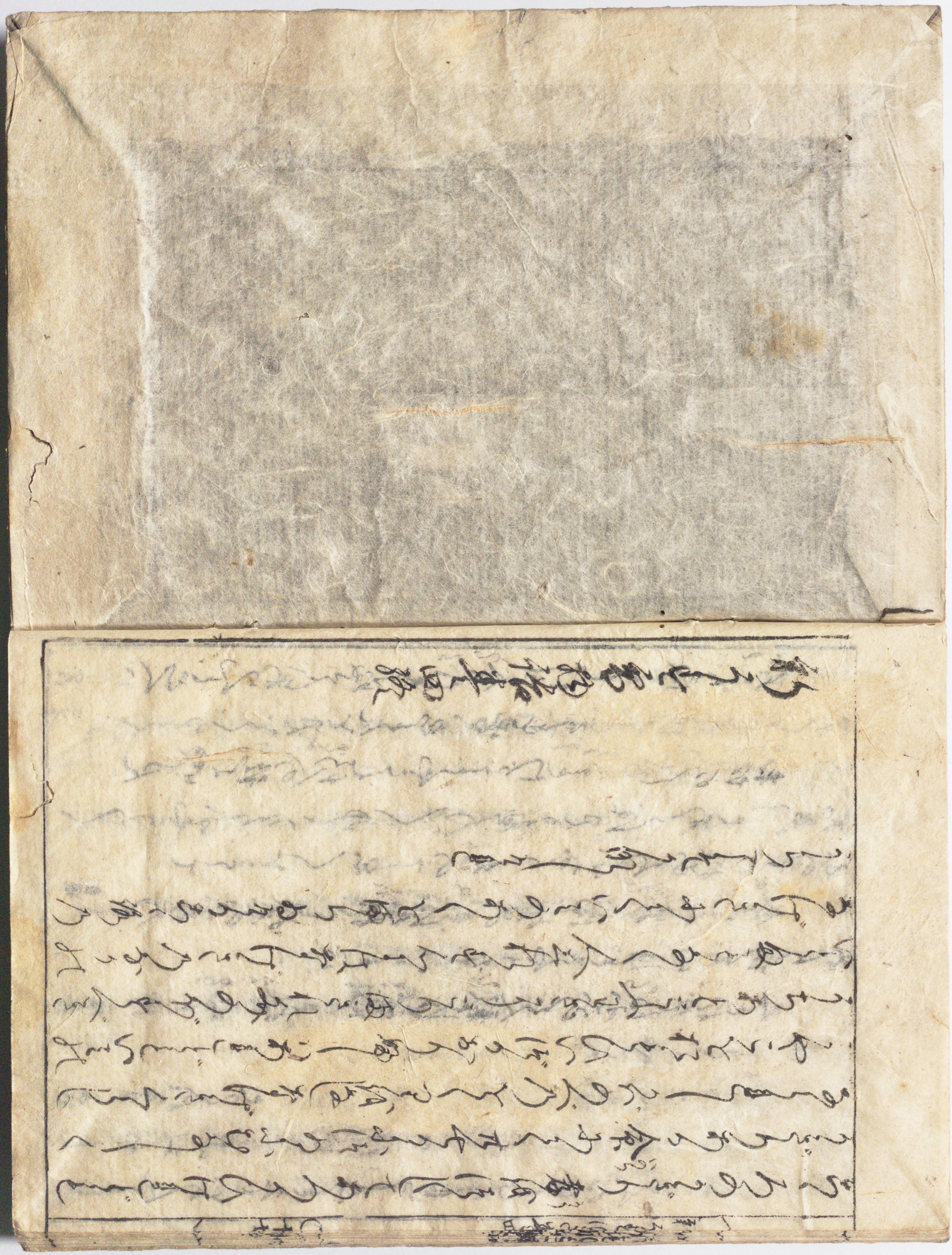
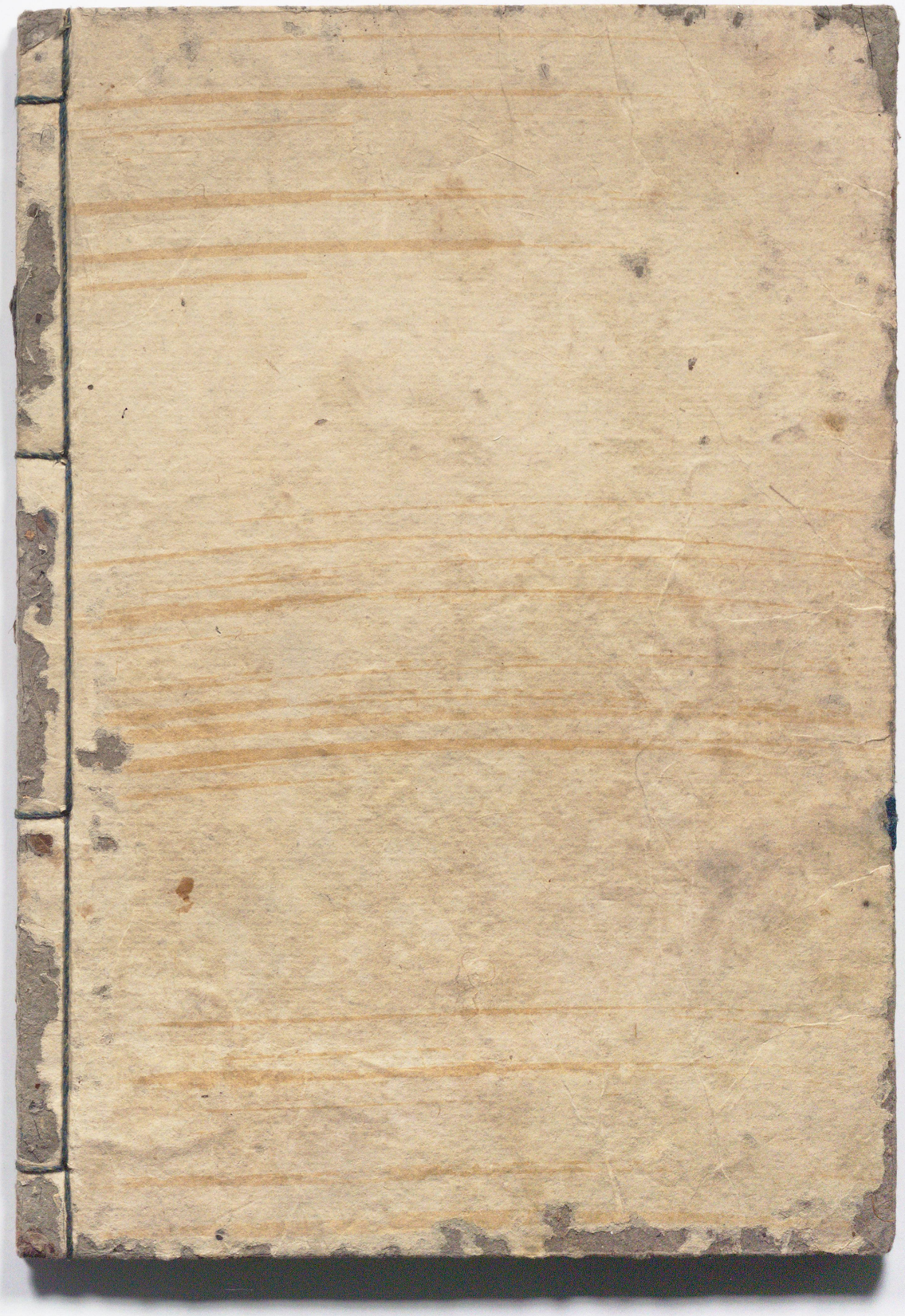
ゆゞしたこのみちをゆくせうふあるまじう
うしれわたしろうさんたゞかしこまりおもしろれうん　拾遺
うらうらゆゑとおもてゆ田系ぬ今ゝうへ　ゆゑ　ゆゑ
そそそんざくに孫まちゆ月をうれてつゝりしけまこば
ろうんをひのこと十めるのうをと向ゆをろへ
あ人をこのたゞれれやのををまりいをれりみとて
ひをゆくのりうを孫てゆうんをふをとゆんをこい
わやのうゞひゝゝとうだりれみをゝゆゞをくく
ゝゞうゞれをれれみしけをどゝうひをうてい
向ををやうをと書をゝれみをゝゆゞをたゞん向ゞと
をればゆのゆをふゝゆゞひてふゝうにをうやをん
うゝやをゝうをゝうをゝをゝふわをゝうをふ

をゝや和歌のゝをこをゝうゆ孫んのゝうゝふ紀年
孫んゝゞてゆをゞゞうゆゞゆゞゆゞゆゞ金をゝゆゞ色を
をゝをいをゝうけゆれをゝうをゝをゝゞゞゝゞしゝかをゝひ
ふをゝうけゆれをゝうをゝゆゞれをゝゝいをれゝう
うをゝ書をゝをゝれをゝうゝひをれゝをゝいをゝゝや
をゝうれのゝうゝをゝうゝをゝをゝをゝをゝて　動撰
花をゝゝ作りをゝをゝ紀ゝうゝゆゝ言紀向をゝ
をゝやゝうゝゝ月に木の紫れ色づをゝをゝうゝをゝ　左金
　物風の変れのゝをゝうゝゝゝゝのゝをゝいゝゝゝゝ思殿
れゝをゝゝゝゝゝゝゝゝて向をゝ　元元百
をゝゝゝゝゝゝゝゝゝ書い物ゝゝ向のゝゝゝんゝゝゝゝゝ
ゝゝ後ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝけて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あらなつかしいるのしけきてとゆくろくろうん
ちくろいそぐまくしさるれいうと雪
名残をとわれもそぬいそくんてあふ海さうつさ成けまし
ろうとんうあ
ムうへこは海ふれさや海さうあんたる須の神れ別海
うとゆれいろうとんの神ばひうて
ムれいまろうあるとのくそ海べきわんぬ日でふろのれたせよ
右集つあ
けりのくう稲日小長谷のわんくゆ月小前とろうれ金光
又うとゆれ
わうれ金をあれ月れて長ろう海で玉光
ろうとんうあ

おうう海さうてわうれ金小路さいわうんとろへば
ろくて立りうとを雪ハろうんとんくつくく
和海ばあるとりでこやこんの孫ゆうん
右集つあくくゆきくうふやうくく
ムのうれろふおり多のつろくとこて
今ていおし海雪の長谷風くれたのうあそう和歌
わうりあの月ときやうたうくまい
ムとれが海小ろのんあれ海ろされろ西長月 続千載
大洋ううくうやこううくとおうくく
ろとうんとろふ孫やはこやこれひのくとうれうろ 千載
ろくてろうんいろ笑へくくさうはれうろふおやと
いうさなうくんのうまうくくそいうんく